

た後、自分の膝をさするようにして職員にジュエスチャード伝えてきました。女の子がお金を落としてしまい探す場面では、「もうひとつは、どこかな」と読むと、ページ全体を見渡し、一緒に探している様子が見られました。「くさのかげにありました」と職員が読み進めていくと、Aさんもお金を指差しながら職員を見て、お金を見つけたことを伝えてきました。お店に着いた女の子が、大きな声でお店の人を呼ぶことが出来ず、何度も「ぎゆうにゆうくださあい」と言う場面では、口をへの字にして困った表情をしながら「声が小さい」とジュエスチャード伝えてきました。大きな声で言えて、お店の人が女の子に気づく場面では、本をギュッと持ち、より注目して見ていました。おつかいができた時には、口元を緩ませながら指で「まる」を作り、職員に伝えてきました。お話を聞きながら、女の子に起こった出来事を心配したり、Aさん自身も女の子と同じようにおつかいをしていることを想像したりして、ドキドキした気持ちになっていたように感じました。

『バランスおつきさま』というバランスゲームをしまし

た。『バランスおつきさま』は、大きさの異なる3つの円柱の積み木をおつきさまの形をした土台に積んでいきます。バランスが崩れ、積み木が崩れてしまったら終わりのゲームです。



職員と順番に積み木を置いていきました。やり始めた頃は、積み木を置く時にうまく手離せず、グラグラしてしまいうことが多くありました。1つだけ積み木が落ちても、すぐに積み重ねて、次の積み木を積もうとします。いくつかの積み木が崩れ落ちると、頭に手をおき「失敗した」というジュエスチャードをしました。

積み木を崩さずに置くことよりも、積み重ねることに意識が向いているように感じました。何度かやっていると、積み木を手を持ってから、おつ

きさまの土台に置くまでに、時間が空くようになりまし。どこに置くか悩んでいるように見えました。積み木を置くときも、以前より慎重に置いていきます。積み木を置くとした時に、おつきさまがグラグラ揺れていると、その場所に積み木を置くのをやめ、他の場所に置き換えていました。積み木を置くと、そつと両手を膝や腰の後ろにまわし、揺れているおつきさまが止まるまでじつと見ています。おつきさまがバランス良く止まると、職員を見てからおつきさまを指差し、口元を緩ませながら指で「まる」を作り、崩れずに置けたことを職員に伝えてきました。積み木を置く度にグラグラと揺れるおつきさまに、崩れ落ちないように積み木を積み上げていく面白さを感じて、満足しているようでした。

ほくとの  
日常活動紹介  
磯部 眞美

Aさん(横地分類A4)は、普段ビニール袋のようなガサガサと音が出る素材の物を好んで触っています。以前、たつぷりと水をはった透明の容器

に、ストローで息を吹き込んで気泡が出る様子と音を楽しむ活動をしていました。大きく息を吹き込むとポコポコと大きな気泡ができ、そつと吹き込むとコポコポと小さな気泡ができます。それをゆつくり交互に繰り返すと、音が小さくなる時には素材を触る手を止めて集中して聞いて、再び大きくなると「はは」と笑っていました。音が小さくなったり大きくなったりする変化を楽しんで聞いているようでした。

今は、太鼓で音の大小を楽しめる活動をしています。トントトントン・トントトントン・トントトントンのリズムで、太鼓の面を大きな音でトントトン、ふちを小さい音でトントトントンと大小交互にゆつくりと繰り返して叩きます。5回ほど繰り返した後に、最後に面をドドンと叩き、一区切りをつけます。すると、水の気泡の音と同じように、小さい音を集中して聞いたり小さい音から大きくなる音に面白みを感じたりしている様子がありました。

また、ドドンの後に次の音を鳴らすまで少し時間をあけて区切りを意識的につけて音のあるなし、始まりと終わりを感じやすくすると、ドドンの

後で音が出ないことに気がつき、目線を太鼓の方に向けて、じつとまた音がなる事を待っている様子でした。その後トントトントンと再び叩き始めると、音を聞いて「ははは」と笑っていました。音の始まりから終わりまでのひとまとまりを感じ、再び鳴ることを期待して聞いている様子でした。



Bさん(横地分類A4)は、周りの様子をよく見ていて面白そうな素材が置いてあるとすぐに見つけ、素材を触って動かしています。周囲の音もよく聞いており、職員が楽器を弾きながら歌っていると、「ふふふ」と声を出して笑っていることもあり、少し遠くでも音を聞いている様子も見られます。『あのやまこえてどこいく